
シェアリングエコノミー関連調査 2023年度調査結果 (SDGsへの貢献効果)

株式会社 情報通信総合研究所
2023年4月

SDGsへの貢献効果一覧

| SDGsへ貢献するシェアリングエコノミーの効果の例 | 対応するSDGs |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 医療・介護サービスが受けられる人の増加（医療・介護スキル） | <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ニーズに合う教育を受けられる人の増加（教育スキル） | <p>4 質の高い教育をみんなに</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 労働参加できる女性の増加（育児・家事スキル、クラウドソーシング） | <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 失業を回避できる人（全カテゴリー） 働きがいを感じる人の増加（民泊、スキル全般） | <p>8 働きがいも経済成長も</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 観光振興（民泊、体験スキル）、企業支援・関係人口増加（専門スキル） | <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 移動手段の確保・移動費用の減少（移動全般） 買い物のための移動の負担減少（買い物代行） 都市周辺部と農村部の交流拡大（全カテゴリー）、 | <p>11 住み続けられる街づくりを</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> 新品を購入する人の減少・ゴミの減少・ゴミ処理に伴うCO₂排出の減少（スペース、モノ、移動） <u>自動車での移動によるCO₂排出の減少（サイクルシェア、カーシェア）</u> | <p>12 つくる責任つかう責任</p> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> |

2032年度の移動のシェアによる脱炭素社会への貢献

移動のシェアによるCO₂排出削減効果は国内小売業全体の排出量と同程度

シェア
活用前

日本全体の自動車からのCO₂排出量※1
8,440万t-CO₂
(2020年度)

カーシェアサービス
によるCO₂削減効果

サイクルシェアサービス
によるCO₂削減効果

カー・サイクル
シェア合計

シェア
活用後

効率的な自動車利用により
移動距離・燃料消費が減少
(電気自動車のシェアカー利用増加効果も含む)

自動車移動を自転車で
代替することで燃料消費が減少

貢献効果
合計

280万※2
t-CO₂減少
(3.3%減少※3)

43万※2
t-CO₂減少
(0.5%減少※3)

323万
t-CO₂減少
(3.8%減少)

小売業の排出量330万t-CO₂と同程度

※1 国土交通省「運輸部門における二酸化炭素排出量」 https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000007.html

※2 2032年度のシェアリングエコノミー市場規模が15兆1,165億円（課題解決シナリオ）まで拡大すると想定した場合の推計

※3 日本全体の自動車からのCO₂排出量8,440万t-CO₂に対する減少率

移動のシェアサービス利用によるCO₂削減効果

| | シェアサービスのCO ₂ 排出削減効果 | 参考 |
|-------------------------|--------------------------------|--|
| カーシェア 1,000円 利用 | 3,089g-CO ₂ 減少 | ドラム式洗濯乾燥機が排出するCO ₂ の4回分 自動販売機が排出するCO ₂ の3日分 エアコンが排出するCO ₂ の12時間分 |
| サイクルシェア 1,000円 利用 | 1,445g-CO ₂ 減少 | ドラム式洗濯乾燥機が排出するCO ₂ の1.9回分 自動販売機が排出するCO ₂ の1.4日分 エアコンが排出するCO ₂ の6時間分 |

参考情報は以下の出典の情報を元に計算
<https://wastebox.net/info/faq/p1631/>

CO₂排出減少量の算出方法①カーシェア

CO₂排出
減少量

=

カーシェア利用者数
(資産の利用者)

×

カーシェア利用による
1人あたりの
年間CO₂排出減少量

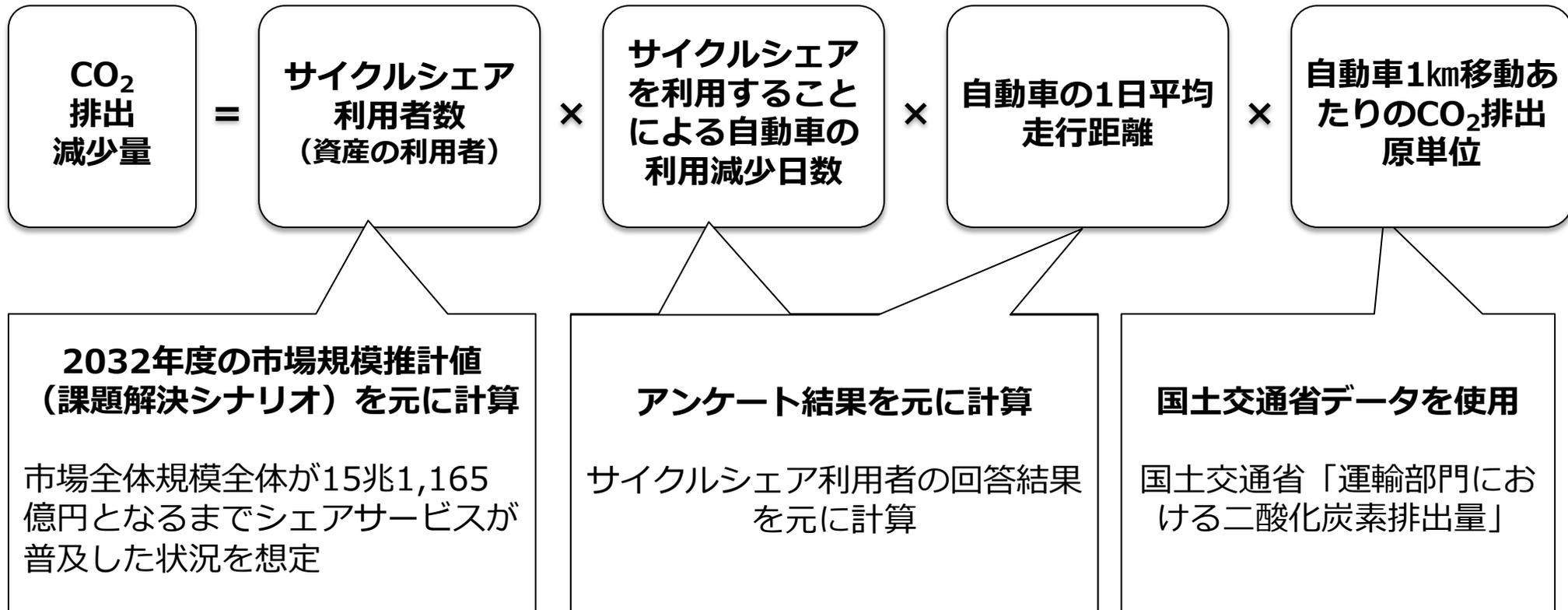
2032年度の市場規模推計値
(課題解決シナリオ) を元に計算

市場全体規模全体が15兆1,165億円となるまでシェアサービスが普及した状況を想定

既存調査の結果から算出

交易財団法人交通エコロ
ジー・モビリティ財団「カー
シェアリングによる環境負荷
低減効果の検証報告書」

CO²排出減少量の算出方法②サイクルシェア



推計に使用したデータの出典・計算方法

| データ | 出典・計算方法 |
|---|---|
| カーシェア利用による1人あたりの年間CO ₂ 排出減少量 | 交易財団法人交通エコロジー・モビリティ財団「カーシェアリングによる環境負荷低減効果の検証報告書」のカーシェア利用による1世帯当たりの年間CO ₂ 排出減少量と、総務省「令和2年国勢調査」の年齢別人口データから計算 |
| 自動車1km移動あたりのCO ₂ 排出原単位 | 国土交通省「運輸部門における二酸化炭素排出量」における二酸化炭素排出量（2020年度）自家用自動車131g-CO ₂ /kmを使用 |

参考：アンケート調査概要

調査名称：シェアリングサービスに関するアンケート調査

調査手法：Webアンケート調査（プレ調査、本調査の2段階）

調査対象：調査会社のWebモニター、20代～60代の男女

調査時期：2022年9月29日～10月6日、10月4日～8日

※プレ調査は追加回収を含む

<プレ調査回答数> ※シェアサービスの提供率・利用率等の算出に使用

| 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 合計 |
|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 5,380 | 6,793 | 7,963 | 9,730 | 10,186 | 40,052 |

<本調査回答数> ※上記以外のシェアサービスの一か月あたりの収入・支出等の算出に使用

| 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 566 | 542 | 535 | 535 | 541 | 2,719 |

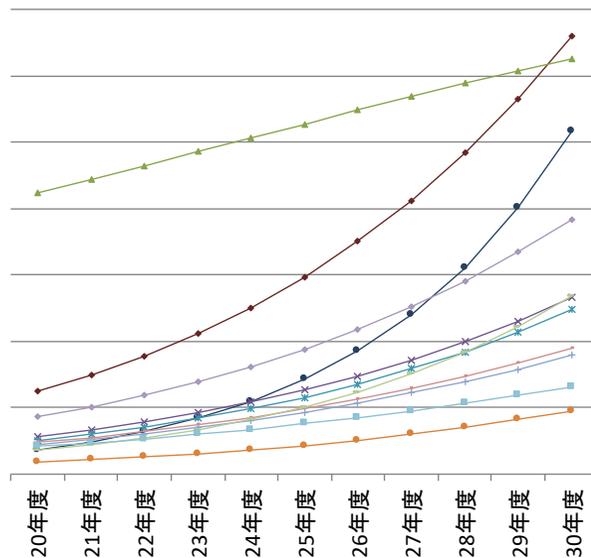
調査報告書の販売について

- 市場規模、副業の価値、SDGs貢献効果を詳細に分析した報告書・データ集を情報通信総合研究所より販売予定です。

問合せ先：山本悠介（E-mail：yamamoto@icr.co.jp、Tel：03-3663-7500）

市場規模の詳細データ (12カテゴリ別、毎年度)

| | |
|------|---------|
| スペース | 民泊 |
| | その他 |
| モノ | 売買 |
| | レンタル |
| 移動 | カーシェア |
| | サイクルシェア |
| | その他 |
| スキル | 対面型 |
| | 非対面型 |
| お金 | 購入型 |
| | その他 |



SDGsへの貢献効果、 副業の価値の詳細データ

移動のシェア

～t-CO₂減少

スペースのシェア

～t-CO₂減少

モノのシェア

～t-CO₂減少

SDGsへの貢献効果は2022年度に分析したスペースのシェア、モノのシェアも含めた32年度予測結果の詳細を掲載予定

自治体への導入、事業者への投資や事業連携が有望なサービスはどれか等が分かる

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社情報通信総合研究所

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-14-10

アーバンネット日本橋ビル

<http://www.icr.co.jp/>

ICTリサーチ・コンサルティング部

山本悠介

E-mail : yamamoto@icr.co.jp

Tel : 03-3663-7369

FAX : 03-3663-7660

